

シ ラ バ ス 平成30年度

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程)

教科	理科	学年	1	年	時間数	105	時間
----	----	----	---	---	-----	-----	----

教科書名	新編新しい科学1年 2年	出版社名	東京書籍
------	--------------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	関	思	技	知	
一 学 期	4	(1年)単元1 植物の世界	1 花のつくりとはたらき	◎	○	○		<p><b>授業の概要</b></p> <p>理科は、物質やエネルギー、生物や自然に関する分野を単元ごとに入れ替えながら学習します。</p> <p>1年生では、「光」、「音」、「力」、「身のまわりの物質」、「植物」、「大地の変化」、「動物」について学習します。</p> <p>実験・観察も行いますが、計算問題などの難しい問題の演習も行い、基礎・基本の習得や応用力を身に付けます。</p> <p><b>学習の到達目標</b></p> <p>・自然の事物や現象に対する関心を高め、意欲的に調べようとする。</p> <p>・実験、観察の技能を高め、調べる方法を考えたり、規則性を見つけたりすることができる科学的な見方や考え方を養う。</p> <p>・観察や実験の方法を身に付けたり、理解した内容についての自分の考えを分かりやすく表現することができる。</p> <p>・用語、性質などを正しく理解し、確実な知識として身に付けることができる。</p> <p><b>評価の観点</b></p> <p>関心・意欲・態度</p> <p>自然の事物・現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、事象を人間生活とのかかわりで見ようとしている。</p> <p><b>科学的な思考・表現</b></p> <p>自然の事物・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察、実験などを行うとともに、事象を実証的・論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして問題を解決している。</p> <p><b>観察・実験の技能</b></p> <p>観察、実験の基本操作を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付けた自らの考えを的確に表現している。</p> <p><b>知識・理解</b></p> <p>自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。</p> <p><b>評価方法</b></p> <p>学習の状況は、「自然事象への関心・意欲・態度」、「科学的な思考・表現」、「観察・実験の技能」、「自然事象についての知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。</p> <p><b>備考</b></p>
		1章 花のつくりとはたらき	2 マツの花と種子	◎	○	○		
		2章 葉、茎、根のつくりとはたらき	1 葉のつくり	○	○	◎		
	5	3章 植物の分類	1 種子をつくる植物の分類	○	◎	○		
		中間考査(5/15～5/16)	2 種子をつくらぬ植物	○	○	○		
	6	(1年)単元2 身のまわりの物質	1 物体を物質で区別する 2 金属と非金属	○	◎	○	○	
		1章 身のまわりの物質とその性質	3 金属を区別する	○	○	○	○	
			4 白い粉末を区別する	○	○	○	○	
			5 プラスチックを区別する	○	◎	○		
		期末考査3年(6/27～7/3) 期末考査1・2年(6/28～7/3)		○	○	○	○	
	7	2章 気体の性質	1 気体を区別する	○	○	○	○	
		3章 水溶液の性質	1 物質が水にとけるとは 2 水にとけている物質をとり出す	○	◎	○	○	
8	夏季休業日(7/21～8/26)							
二 学 期	9	4章 物質の姿と状態変化	1 物質の状態変化 2 状態変化するときの体積と質量		◎	○	○	
			3 状態変化するときの温度		○	◎	○	
	(1年)単元3 身のまわりの現象	1 ものの見え方 2 反射した光の進み方	○	◎	○	○		
	1章 光の世界	3 光が透明な物体を通るときの進み方	○	◎	○	○		
		4 レンズのはたらき			◎	○		
	中間考査(10/9～10/10)		○	○	○	○		
10	2章 音の世界	1 音の伝わり方 2 音の大小と高低	○	○	○	○		
	3章 いろいろな力の世界	1 日常生活のなかの力 2 力の表し方 3 圧力とは何か	○	◎	○	○		
11	(1年)単元4 大地の変化	1 火山の形 2 火山が生み出すもの		◎	○	○		
	1章 火をふく大地	3 火山活動と岩石 4 火山灰の広がりがから考える		◎	○	○		
12	期末考査3年(11/28～12/4) 期末考査1・2年(11/29～12/4)		○	○	○	○		
	2章 動き続ける大地	1 地震のゆれの伝わり方 2 地震のゆれの大きさ	○	◎	○	○		
冬季	3 地震と災害 4 地震が起こるしくみ		◎	○	○	○		
	冬季休業日(12/21～1/6)							
三 学 期	1	3章 大地の変化を読みとる	1 地層のでき方 2 地層や化石からわかること	◎	○	○		
			3 堆積岩 4 大地の変動 5 大地の歴史	○		◎		
	(2年)単元2 動物の生活と生物の変遷	1 細胞のつくり		○	◎	○		
	1章 生物と細胞	2 単細胞生物と多細胞生物	◎	○	○	○		
	2章 動物のからだのつくりとはたらき	1 消化と吸収	○		◎	○		
2		2 呼吸のはたらき		◎	○	○		
	学年末考査3年(2/22～2/28) 学年末考査1・2年(2/25～2/28)		○	○	○	○		
3		3 血液の循環 4 排出のしくみ	○	◎	○	○		
		5 刺激と反応 6 からだが動くしくみ	○	◎	○	○		

シ ラ バ ス  
平成30年度

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程)

教科	理科	学年	2	年	時間数	140	時間
----	----	----	---	---	-----	-----	----

教科書名	新編新しい科学2年 3年	出版社名	東京書籍
------	--------------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	関	思	技	知	
一 学 期	4	(2年)単元2 動物の生活と生物の変遷	3 動物の分類	◎	○	○		<p style="text-align: center;">授業の概要</p> 理科は、物質やエネルギーに関する物理、化学分野と、生物や自然に関する生物、地学分野を単元ごとに入れ替えながら学習します。 2年生では、物理、化学分野は、「電流」、「運動と力」、「エネルギー」について、生物、地学分野は、「動物」、「気象」、「細胞と子孫の残し方」について学習します。 実験・観察も行いますが、計算問題などの難しい問題の演習も行い、基礎・基本の習得や応用力を身に付けます。
		3章 動物の分類	4 無セキツイ動物	◎	○	○		
	5	4章 生物の変遷と進化	1 セキツイ動物の出現と進化 2 進化の証拠	○ ◎	○	○		
		中間考査(5/15～5/16)		○	○	○		
	6	(2年)単元1 化学変化と原子・分子	1 カルメ焼きの秘密 2 物質はどこまで分解できるか	○	○	○		
		1章 物質のなり立ち	3 物質をつくる原子 4 分子とは何か 5 物質を記号で表す	○ ◎	○	○		
		2章 物質どうしの化学変化	1 物質どうしの結びつき 2 化学変化を原子の記号で表す	○	○	○		
		3章 酸素がかかわる化学変化	1 ものが燃えるとは 2 酸化物から酸素をとる	○ ○		◎		
	7	期末考査3年(6/27～7/3) 期末考査1・2年(6/28～7/3)		○	◎	○		
		4章 化学変化と物質の質量	1 化学変化と質量の変化 2 化合する物質の割合	○	○	○		
	8	夏季休業日(7/21～8/26)						
	二 学 期	9	5章 化学変化とその利用	1 化学変化と熱 2 わたしたちのくらしと化学変化		◎	○	
(2年)単元3 電気の世界			1 電気の利用 2 回路に流れる電流		○	◎	○	
1章 電流の性質		3 回路に加わる電圧 4 電圧と電流の関係 5 電気のエネルギー	○ ◎		○			
2章 電流と磁界		1 電磁石のまわりの磁界 2 磁界の中で電流が受ける力 3 モーターを回したときに発生する電流 4 直流と交流	○ ◎		○			
10		中間考査(10/9～10/10)		○	○	○		
		3章 静電気と電流	1 身近な静電気による現象 2 真空放電と陰極線 3 電流の正体	○	○	○		
11		(2年)単元4 天気とその変化	1 気象の観測	○ ◎	○	○		
		1章 気象の観測	2 気圧と風	○		◎		
		2章 前線とまわりの天気の変化 3章 大気の動きと日本の天気	1 気団と前線 2 前線の通過と天気の変化 1 大気の動き 2 日本の天気 3 天気を予報しよう		◎	○	○	
12		期末考査3年(11/28～12/4) 期末考査1・2年(11/29～12/4)		○	○	○		
	4章 雲のでき方と水蒸気	1 水蒸気が水に変化するとき 2 飽和水蒸気量と湿度	○ ◎	○	○			
冬季休業日(12/21～1/6)								
三 学 期	1	3章 雲はなぜできるのか 4 水の循環	3 雲はなぜできるのか 4 水の循環	◎	○	○	<p style="text-align: center;">評価の観点</p> 自然の事物・現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、事象を人間生活とのかかわりで見ようとしている。	
		(3年)単元2 生命の連続性	1 生物の成長と細胞の変化		○	◎		○
	2	1章 生物の成長と生殖	2 植物の生殖 3 動物の生殖	◎	○	○		
		学年末考査3年(2/22～2/28) 学年末考査1・2年(2/25～2/28)	4 有性生殖と無性生殖の特徴	○	◎	○		
	3	2章 遺伝の規則性と遺伝子	1 遺伝の規則性 2 遺伝子やDNAに関する研究成果の活用	○ ◎	○	○		

平成30年度  
シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程)

教科	理科	学年	3	年	時間数	140	時間
----	----	----	---	---	-----	-----	----

教科書名	新編新しい科学3年 新編化学基礎	出版社名	東京書籍
------	------------------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	関	思	技	知	
一 学 期	4	単元3 運動とエネルギー 1章 物体のいろいろな運動	1 運動している物体 2 運動を記録する 3 運動の変化と力 4 運動と力の向き 5 等速直線運動	○				<p>授業の概要</p> <p>理科は、物質やエネルギー、生物や自然に関する内容を単元ごとに入れ替えながら学習し、中学理科の内容が終了したあとで、高校の理科の内容を学習します。</p> <p>3年生では、中学理科の内容として、「運動とエネルギー」「物質」「化学変化」「イオン」「酸とアルカリ」「天体」「自然と環境」について学習します。</p> <p>高校の理科の内容は、「化学基礎」という科目について、学習します。</p> <p>実験・観察も行いますが、計算問題などの難しい問題の演習も行い、基礎・基本の習得や応用力を身に付けます。</p> <p>学習の到達目標</p> <p>・自然の事物や現象に対する関心を高め、意欲的に調べようとする。</p> <p>・実験・観察の技能を高め、調べる方法を考えたり、規則性を見つけたりすることができる科学的な見方や考え方を養う。</p> <p>・観察や実験の方法を身に付けたり、理解した内容についての自分の考えを分かりやすく表現することができる。</p> <p>・用語、性質などを正しく理解し、確実な知識として身に付けることができる。</p> <p>評価の観点</p> <p>関心・意欲・態度</p> <p>自然の事物・現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、事象を人間生活とのかかわりで見ようとしている。</p> <p>科学的な思考・表現</p> <p>自然の事物・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察、実験などを行うとともに、事象を実証的・論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして問題を解決している。</p> <p>観察・実験の技能</p> <p>観察、実験の基本操作を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付けた。それらの過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現している。</p> <p>知識・理解</p> <p>自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。</p> <p>評価方法</p> <p>学習の状況は、「自然事象への関心・意欲・態度」、「科学的な思考・表現」、「観察・実験の技能」、「自然事象についての知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。</p> <p>備考</p>
		2章 力の規則性	1 2力のつりあい 2 力の合成と分解 3 慣性の法則 4 作用・反作用の法則 5 力と運動の関係			◎	○	
	5	中間考査(5/15～5/16)			○	○		
		3章 エネルギーと仕事	1 物体の持つエネルギー 2 力学的エネルギー 3 仕事		○	○		
	6	単元4 地球と宇宙 1章 宇宙の広がり	1 銀河系と太陽系 2 太陽 3 太陽系の天体		○	○		
		2章 地球の運動と天体の動き	1 天球と方位、時刻 2 地球の自転と天体の動き 3 星座の1年の動き 4 季節の変化		○	◎		
		3章 月と惑星の見え方	1 月の満ち欠け 2 日食と月食 3 惑星の見え方			◎	○	
	7	期末考査3年(6/27～7/3) 期末考査1・2年(6/28～7/3)				○	○	
		1章 自然のなかの生物	1 生態系とは 2 生態系における生物の役割 3 炭素の循環		○	◎	○	
	8	2章 自然と環境保全	1 身近な自然環境の調査 2 自然界のつりあいの変化		◎	○	○	
		夏季休業日(7/21～8/26)						
	9	3章 自然環境の保全と開発 4 自然と人間			◎	○	○	
3章 自然の恵みと災害		1 活動する大地 2 気候の特徴と自然災害 3 自然の恵みと災害の調査		○	◎	○		
終章 地球とわたしたちの未来のために		1 持続可能な社会を目指して 2 身近な取り組みを調べよう 3 これからのわたしたちにできること		○	◎	○		
1章 化学変化とイオン		1 水溶液には電流は流れるか 2 水溶液に電流が流れるのはなぜか		○	◎	○		
10	中間考査(10/9～10/10)			○	○			
	2章 化学変化と電池	3 イオンと原子の成り立ち 1 電解質の水溶液と金属板から電流を取り出す 2 電池の中で起こる変化 3 身のまわりの電池		○	◎	○		
11	3章 酸、アルカリとイオン	1 水溶液の酸性、アルカリ性 2 酸とアルカリの水溶液を混ぜ合わせる		○	◎	○		
	期末考査3年(11/28～12/4) 期末考査1・2年(11/29～12/4)				○	○		
12	化学基礎 序編 化学と人間生活	・金属製錬の歴史・鉄・銅・アルミニウム ・セラミックス・プラスチック・繊維		○	◎	○		
	冬季休業日(12/21～1/6)							
二 学 期	1	1章 物質の探究 1 物質の性質と分離	・食料の確保・食品の保存・洗剤・純物質と混合物・分離操作・物質の三態	◎	○	○		
		2 物質の成分	・粒子の熱運動・絶対温度	○		◎		
	2	2章 物質の構成粒子 1 原子の構造	・元素と元素記号・単体と化合物・元素の確認		○	◎	○	
		2 電子配置と周期表	・原子・原子核と電子・同位体・電子殻と電子配置・周期表		◎	○	○	
	3	3章 物質と化学結合 1 イオンとイオン結合	・イオン・イオンの形成・イオン式・イオン結合・イオン結晶		○		◎	
2 金属と金属結合		・金属と金属結晶・金属の性質と利用			◎	○		
3	学年末考査3年(2/22～2/28) 学年末考査1・2年(2/25～2/28)				○	○		
	3 分子と共有結合	・電子式・配位結合・極性・水素結合・分子模型		○	◎	○		

平成30年度  
シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	理科	科目	化学基礎	学年	4 年	類型	共通	単位数	2	単位
----	----	----	------	----	-----	----	----	-----	---	----

教科書名	改訂 新編 化学基礎	出版社名	東京書籍
------	------------	------	------

学期	月	指 導 計 画		評 価 の 観 点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単 元	内 容	関	思	技	知		
一 学 期	4	1編 物質の成り立ち 3章 物質と化学結合	1 イオンとイオン結合 2 金属と金属結合 3 分子と共有結合 ・分子 ・電子式 ・構造式 ・有機化合物 ・高分子化合物 ・電気陰性度 ・極性 ・分子結晶 ・共有結合の結晶	○			○	<p style="text-align: center;">授 業 の 概 要</p> 化学基礎の授業では、物質は粒子であるという化学の基本的な考えから始まり、徐々に酸と塩基の中和、酸化と還元、電気分解などの物質の変化に関する内容を学びます。 実験、観察を通して自然現象の中に隠れた法則性に気づき、考えを深めることが大切です。	
		5	中間考査(5/15~5/18)				○		◎
	6	2編 物質の変化 1章 物質と化学変化	1 原子量・分子量と物質質量 ・相対質量 ・原子量 ・分子量、式量 ・物質質量 ・濃度 2 化学変化の量的関係 ・化学反応式 ・イオン反応式 ・化学反応式と量的関係 ・化学の基礎法則				○		◎
		6	期末考査(6/27~7/3)				○		◎
	7	2章 酸と塩基	1 酸と塩基 ・酸 ・塩基 ・酸と塩基の定義 ・強さ ・電離				○		◎
		7	夏季休業日(7/21~8/26)						
	8								
	9								
10									
								10	中間考査5年(10/2~10/5) 中間考査4・6年(10/9~10/12)
11									
								11	3章 酸化と還元 1 酸化と還元 ・酸化と還元の定義(酸素、水素、酸化数) ・酸化剤と還元剤 ・酸化還元反応
12									
								12	期末考査(11/28~12/4) ・金属のイオン化傾向 ・イオン化列 ・金属の反応性
二 学 期									
								1	2 酸化還元反応の利用 ・さまざまな電池 ・一次電池と二次電池 ・電気分解 ・ファラデーの法則
3									
								3	問題演習
三 学 期									
								1	冬季休業日(12/21~1/6)
2									
								2	学年末考査4・5年(2/22~2/28)
3									
								3	問題演習

教科	理科	科目	地学基礎	学年	4年	類型	共通	単位数	2	単位
----	----	----	------	----	----	----	----	-----	---	----

教科書名	改訂 地学基礎	出版社名	東京書籍
------	---------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	関	思	技	知	
一学期	4	3 私たちの地球	・地球の形と大きさ	◎	○			<p><b>授業の概要</b></p> <p>一学期は、地球の構造や地震が起こる仕組みについて学びます。 二学期は、火山ができる仕組み、マグマからできる岩石、大気の運動とその原因となる太陽放射、地球の歴史について学びます。 三学期は、地層の成り立ち、造山運動、太陽と太陽系の成り立ち、宇宙の構造と成り立ちについて学びます。 最後に、自然災害への備えや、災害発生時の行動について考えます。</p> <p><b>学習の到達目標</b></p> <p>・自然の事物や現象に関心が持てるようになる。 ・地球表面や内部で起こる運動とそれに伴う地震・火山や造山運動の仕組みについて理解することができる。 ・岩石、鉱物や化石などを観察し、種類の違いを区別できる。 ・太陽放射と地表付近の気象現象との関係について理解できる。 ・水が気象現象に及ぼす影響について理解できる。 ・太陽系の成り立ちについて理解できる。 ・銀河と宇宙の構造、宇宙の成り立ちについて理解できる。 ・地震・火山や気象災害などの自然災害が起こる仕組みを理解し、災害への備えや災害発生時の行動について考えておくことができる。</p>
		1章 大地とその動き	・地球の構造 ・地球内部の動き ・プレートの境界 ・地震のメカニズム		◎	○		
	5	中間考査(5/15～5/18)			○	◎		
		2章 地震	・海溝の地震 ・活断層の地震		◎	○		
	6	3章 火山	・火山ができる場所 ・火山活動の多様性 ・火成岩の観察		○	◎		
		期末考査(6/27～7/3)			○	◎		
	夏季	7	4 私たちの空と海・地球のこれから	・地球の大気		○	○	
1章 大気と海洋			・地球の熱収支		○	○		
8		夏季休業日(7/21～8/26)						
二学期	9	2章 日本の自然の恵みと防災	・大気の大循環 ・海水とその運動 ・日本の自然の特徴・自然の恵み ・地震による災害と防災 ・火山による災害と防災			◎	○	
		中間考査5年(10/2～10/5)	・気象災害と防災・災害と人間のかかわり		○	○		
	10	中間考査4・6年(10/9～10/12)				○	◎	
		2 私たちの地球の変遷と生物の進化	・地層の形成・地質構造 ・変成岩・地層と古環境 ・地球史の最初期・先カンブリア時代		◎		○	
	11	1章 地層や岩石の種類			○	○		
		2章 生命の変遷	・古生代 ・中生代 ・新生代		○	◎		
	12	期末考査(11/28～12/4)				○	◎	
1 私たちの宇宙の進化		・ビッグバンと宇宙の誕生		◎		○		
冬季	1	1章 宇宙の構造と進化	・天体の誕生		○	○		
		2章 太陽と惑星	・恒星としての太陽の進化とその最後 ・銀河と天の川銀河・銀河の集団と宇宙の大規模構造 ・太陽系の誕生 ・太陽系天体の特徴 ・太陽 ・太陽の活動と地球への影響・太陽系の広がり地球		○	◎		
三学期	2	学年末考査4・5年(2/22～2/28)			○	◎		
		終1章 地球環境の考え方	・地球環境の考え方		◎	○		
	3	終2章 自然環境の考え方	・自然環境の変化・人間活動がもたらす自然環境の変化		◎	○		
終3章 これからの地球環境		・世界の取り組み・代替エネルギー・持続可能な発展へ		◎	○			

平成30年度  
シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	理科	科目	化学	学年	5 年	類型	スーパーグローバル理科系	単位数	2	単位
----	----	----	----	----	-----	----	--------------	-----	---	----

教科書名	改訂 化学	出版社名	東京書籍
------	-------	------	------

学期	月	指 導 計 画		評 価 の 観 点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	関	思	技	知	
一 学 期	4	第2編 化学反応とエネルギー	1 反応熱と熱化学方程式		○		○	<p>授業の概要</p> <p>第1編は物質の状態と平衡に関する内容です。主に気体・液体・固体の性質や構造について学びます。</p> <p>第2編は化学反応とエネルギーに関する内容です。化学反応によって生じる熱や光、電池や電気分解のしくみを学習します。</p> <p>第3編は化学反応の速さと平衡に関する内容です。反応速度の理論や可逆反応における平衡移動およびその法則などを学習します。</p> <p>第4編は無機分野です。さまざまな元素の単体やその化合物の性質を学び、周期表の規則性も学習します。</p> <p>化学の第5編以降は、主に6年生で学習します。</p> <p>学習の到達目標</p> <p>・化学的な事象・現象についての観察、実験を行い、実験技能の向上を図るとともに自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を身に付ける。</p> <p>・身の回りの事象・現象の背後に潜む、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成できる。</p> <p>・化学の基本法則を学び、それらを用いて基本的な化学現象について解析することができる。</p>
		1章 化学反応と熱	2 ヘスの法則		○	○	○	
	5	2章 電池と電気分解	1 電池			○	○	
		2章 電池と電気分解	2 電気分解			○	○	
	6	中間考査(5/15～5/18)				○	○	
		第4編 無機物質	1 周期表		○	○	○	
	7	1章 周期表と元素	1 水素と希ガス 2 ハロゲン			○	○	
		2章 非金属元素の単体と化合物	3 酸素・硫黄		○	○	○	
	8	4章 遷移元素の単体と化合物	4 窒素・リン		○	○	○	
		5章 無機物質と人間生活	5 炭素・ケイ素		○	○	○	
9	期末考査(6/27～7/3)				○	○		
	3章 典型金属元素の単体と化合物	1 アルカリ金属		○	○	○		
10	2章 2族元素 3 1, 2族以外の典型元素	2 2族元素			○	○		
	夏季休業日(7/21～8/26)							
二 学 期	11	4章 遷移元素の単体と化合物	1 遷移元素		○	○	○	
		5章 無機物質と人間生活	2 金属イオンの分離・確認			○	○	
12	第1編 物質の状態と平衡	1 物質の三態		○		○		
	中間考査5年(10/2～10/5)				○	○		
1	中間考査4・6年(10/9～10/12)				○	○		
	1章 物質の状態	2 気体・液体間の状態変化			○	○		
2	2章 気体の性質	1 気体 2 気体の状態方程式			○	○		
	3章 溶液の性質	1 溶解			○	○		
3	2章 2族元素 3 1, 2族以外の典型元素	2 希薄溶液の性質			○	○		
	3 コロイド	3 コロイド			○	○		
冬 季	1	期末考査(11/28～12/4)			○	○		
		4章 固体の構造	1 結晶 2 金属結晶の構造		○	○	○	
2	3章 3族元素 4 その他の結晶と非晶質	3 イオン結晶の構造 4 その他の結晶と非晶質		○	○	○		
	冬季休業日(12/21～1/6)							
三 学 期	3	第3編 化学反応の速さと平衡	1 反応の速さ 2 反応の速さを決める条件		○	○		
		1章 化学反応の速さ	3 反応のしくみ		○	○		
4	2章 化学平衡	1 可逆反応と化学平衡 2 平衡の移動			○	○		
	3章 水溶液中の化学平衡	1 電離平衡		○	○	○		
5	2章 2族元素 3 1, 2族以外の典型元素	2 塩の水への溶解 3 緩衝液		○	○	○		
	4章 4族元素 5 難溶性塩の溶解平衡	4 滴定曲線 5 難溶性塩の溶解平衡		○	○	○		
6	学年末考査4・5年(2/22～2/28)				○	○		
	第5編 有機化合物	1 有機化合物の特徴		○	○	○		
7	1章 有機化合物の特徴と構造	2 有機化合物の構造式の決定		○	○	○		
				○	○	○		

平成30年度  
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	理科	科目	生物基礎	学年	5年	類型	スーパーグローバル文科系	単位数	2	単位
----	----	----	------	----	----	----	--------------	-----	---	----

教科書名	改訂版 生物基礎	出版社名	数研出版
------	----------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	関	思	技	知	
一 学 期	4	生物基礎	1 生物の多様性 2 生物の共通性 3 細胞に見られる共通性	○			○	授業の概要 生物基礎の授業では、DNAやヒトを中心とした動物の生理、生物の多様性に注目した生態系など、ミクロレベルからマクロレベルまでの領域を学びます。また、人間の活動と環境との関連についても学ぶことができます。 また、観察、実験などを通して、生物学的に探究する能力と態度を身に付けるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を考察し、科学的な見方や考え方を身に付けることができます。
		第1編 生物と遺伝子	4 生物の特徴と進化 探求活動① いろいろな生物の細胞	○		◎		
		第1章 生物の特徴	1 代謝とエネルギー 2 代謝と酵素	○			○	
			1 光合成 2 呼吸 3 生物とエネルギー	○	◎		○	
	5	中間考査(5/15～5/18)	4 ミトコンドリアと葉緑体の起源	○	○		○	
		第2章 遺伝子とそのはたらき	1 遺伝と遺伝子 2 遺伝子とDNA	○	○		○	
	6			1 DNAの構造 2 遺伝情報とDNA	○	○		
			3 DNAと染色体		◎		○	
		1 タンパク質	○	○		○		
		2 タンパク質の合成		◎	○	○	学習の到達目標	
	7	期末考査(6/27～7/3)		○	○		◎	・日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を養う。 ・生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
夏 季	8	夏季休業日(7/21～8/26)						
	9	第2編 生物の体内環境の維持	1 体内環境と体液 2 体液の循環 3 血液凝固	○	○	○	◎	評価の観点 関心・意欲・態度 自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。
第3章 生物の体内環境とその維持		1 体液の塩分濃度調節	○	○	○	◎		
		2 腎臓 3 肝臓	○	○		◎		
二 学 期			1 自律神経系	○	○		◎	思考・判断・表現 自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
			2 内分泌系	○	○	○	◎	
		中間考査5年(10/2～10/5)	3 自律神経系と内分泌系による調節	○	○	○	◎	観察・実験の技能 観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
		中間考査4・6年(10/9～10/12)		○	○	○	◎	
	10		1 生態防御と免疫		◎	○	◎	知識・理解 自然の事物・事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
			2 自然免疫	○	○		◎	
			3 獲得免疫	○	○		◎	
11		4 免疫と病気	○	○		◎	評価方法 学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「観察・実験の技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。	
		期末考査(11/28～12/4)			◎	◎		
冬 季	12	第3編 生物の多様性と生態系	1 植生	○	○		◎	備考
		第4章 植生の多様性と分布	2 植生の構造	○	○		◎	
三 学 期	1	冬季休業日(12/21～1/6)						備考
		第5章 生態系とその保全	1 植生遷移 2 遷移と植物の競争 3 植生の破壊と再生	◎	○	○	◎	
		1 バイオーム 2 世界のバイオーム	○			◎		
		3 日本のバイオーム	○		○			
		1 生態系 2 生物のつながり	○			◎		
2		1 炭素の循環 2 窒素の循環	○			◎	備考	
		1 生態系のバランス	○			◎		
3		2 人類と生態系 3 地球環境問題 4 自然環境の保全	○			◎	備考	
		学年末考査4・5年(2/22～2/28)			◎	◎		
	3	問題演習	問題演習	○	◎		◎	

平成30年度  
シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	理科	科目	生物基礎 生物	学年	5 年	類型	スーパーグローバル理科系	単位数	2 2	単位
----	----	----	------------	----	-----	----	--------------	-----	--------	----

教科書名	改訂版 生物基礎 ・ 改訂版 生物	出版社名	数研出版
------	-------------------	------	------

学期	月	指 導 計 画		評 価 の 観 点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	関	思	技	知	
一 学 期	4	生物基礎	1 生物の多様性 2 生物の共通性 3 細胞に見られる共通性	◎	○	○		<p style="text-align: center;">授 業 の 概 要</p> 生物基礎の授業では、生物の共通性について考え、遺伝子やタンパク質の合成、ヒトを中心とした動物の生理、生物の多様性に注目した生態系などについて大まかに広く学びます。 生物の授業では、生物基礎の内容をベースに、さらに広く深く学びます。5年次には、細胞、タンパク質、同化、異化、生物の発生について学びます。 座学だけでなく、観察、実験などを通して、生物学的に探究する能力と態度を身に付けるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を考察し、科学的な見方や考え方を身に付けることができます。
		第1編 生物と遺伝子	4 生物の特徴と進化 探求活動① いろいろな生物の細胞	○		◎	○	
		第1章 生物の特徴	1 代謝とエネルギー 2 代謝と酵素 1 光合成		○		◎	
		第2章 遺伝子とそのはたらき	2 呼吸 3 生物とエネルギー 4 ミトコンドリアと葉緑体の起源		○		◎	
	5	中間考査(5/15～5/18)	1 遺伝と遺伝子 2 遺伝子とDNA		○		○	
			1 DNAの構造 2 遺伝情報とDNA 3 DNAと染色体		◎	○	◎	
	6		1 タンパク質 2 タンパク質の合成		○		○	
			1 細胞の分裂とDNA 2 細胞の分化と遺伝情報		○		◎	
			3 ゲノムとDNA		○	◎	○	
			第2編 生物の体内環境の維持	1 体内環境と体液 2 体液の循環 3 血液凝固	○	○		
7	第3章 生物の体内環境とその維持	1 体液の塩分濃度調節 2 腎臓 3 肝臓	○	○		◎		
	期末考査(6/27～7/3)		○	○		◎		
		1 自律神経系 2 内分泌系 3 自律神経系と内分泌系による調節		◎	○	◎		
		1 生態防御と免疫 2 自然免疫 3 獲得免疫 4 免疫と病気		○		◎		
夏季	8	夏季休業日(7/21～8/26)						
二 学 期	9	第3編 生物の多様性と生態系	1 植生 2 植生の構造	○			◎	<p style="text-align: center;">学 習 の 到 達 目 標</p> ・日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を養う。 ・生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
		第4章 植生の多様性と分布	1 植生遷移 2 繊維と植物の競争 3 植生の破壊と再生	○			◎	
		第5章 生態系とその保全	1 パイオーム 2 世界のパイオーム 3 日本のパイオーム	○			○	
			1 生態系 2 生物のつながり 1 炭素の循環 2 窒素の循環	○			○	
	10	中間考査5年(10/2～10/5)	1 生態系のバランス 2 人類と生態系 3 地球環境問題 4 自然環境の保全	○			○	
		中間考査4・6年(10/9～10/12)		○			○	
	11	生物	1 生体の構成 2 タンパク質の構造と性質 3 酵素のはたらき		◎	○	◎	
		第1編 生命現象と物質 第1章 細胞と分子	4 細胞の構造とはたらき 5 細胞の活動とタンパク質	○	○	○	◎	
		第2章 代謝	1 代謝とエネルギー 2 呼吸と発酵	○	○	○	◎	
		第3章 遺伝情報の発現	3 光合成 4 窒素同化	○	○		◎	
12		1 DNAの構造と複製 2 遺伝情報の発現	○	○		◎		
		3 遺伝情報の発現調節 4 バイオテクノロジー	○	○		◎		
	期末考査(11/28～12/4)			◎	○	◎		
		第2編 生殖と発生	1 遺伝子と染色体 2 減数分裂と遺伝情報の分配	○	○		◎	
冬 季	第4章 生殖と発生	3 遺伝子の多様な組合せ	○	○		◎		
	冬季休業日(12/21～1/6)							
	1		4 動物の配偶子形成と受精 5 初期発生の過程	○			○	
			6 細胞の分化と形態形成	○			◎	
		7 植物の発生	○	◎		○		
三 学 期	2		1 ニューロンとその興奮	○			◎	<p style="text-align: center;">評 価 方 法</p> 学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「観察・実験の技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。
			2 刺激の受容 3 情報の統合	○			◎	
		4 刺激への反応	○		○	○		
		学年末考査4・5年(2/22～2/28)	5 ウニの発生 動物の行動	○			◎	
3					◎	○	◎	
	第6章 植物の環境応答	1 植物の反応	○			◎		
		2 成長の調節 3 花芽形成と発芽の調節	○	○		○	<p style="text-align: center;">備 考</p> 進度はかなり速くなります。復習を心がけ、一日一問の問題演習を継続することが大切です。	



平成30年度  
シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	理科	科目	探究理科 I (化学分野)	学年	5 年	類型	スーパーグローバル文科系	単位数	2	単位
----	----	----	------------------	----	-----	----	--------------	-----	---	----

教科書名	探究 化学基礎	出版社名	愛媛県高等学校教育研究会理科部会 東京書籍
------	------------	------	--------------------------

学期	月	指 導 計 画		評 価 の 観 点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	関	思	技	知	
一 学 期	4	第2章 身の回りの科学	1 銅の精錬 2 タオル 3 炭素繊維	○	○	○		授 業 の 概 要  身の回りの産業やそこで利用されている科学的な仕組みについて学習し理解を深めたあと、化学基礎の内容を復習していきます。4年次でできなかった実験や観察を行い、科学的な考え方や態度を身に付けます。3学期には、化学分野における総復習の意味で、問題演習を中心として学力の定着を図ります。
		第1節 愛媛の産業と科学	4 ポリエステルリサイクル 5 クリーンエネルギー	○	○	○		
		第3章 環境問題の学習		○		○		
		第1節 大気汚染	1 地球温暖化 2 オゾン層の破壊 3 酸性雨	○	○	◎		
	5	第2節 水質汚染	1 河川や湖沼、地下水の汚染 2 海洋の汚染	○		○		
		中間考査(5/15～5/18)			○	◎		
		第2節 水質汚染	1 土壌の働き 2 土壌汚染		○	○		
	6	物質の成り立ち	物質の性質と分類		○	○		
		1 物質の探究	物質の成分		○	○		
		2 物質の構成粒子	原子の構造 電子配置と周期表		○	◎		
		3 物質と化学結合	イオンとイオン結合		○	◎		
	7	期末考査(6/27～7/3)			○	◎		
				○	◎			
		金属と金属結合 分子と共有結合		○	○			
夏 季	8	夏季休業日(7/21～8/26)						
	9	物質の変化	原子量・分子量と物質量		○	◎		
1 物質量と化学変化		化学変化の量的関係		○	◎	◎		
2 酸と塩基		酸と塩基 水素イオン濃度とpH 中和反応と塩の生成 中和反応の量的関係と中和滴定		○	◎	◎		
二 学 期	10	中間考査5年(10/2～10/5)			○	◎	評 価 の 観 点  関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度  自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	
		中間考査4・6年(10/9～10/12)			○	○		
	3 酸化と還元	酸化と還元 酸化還元反応の利用		○	◎	○		
	11	4 物質の変化と熱	反応熱と熱化学方程式 ヘスの法則 結晶とエネルギー		○	○		○
		思考・判断・表現  自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。			○	◎		○
	12	期末考査(11/28～12/4)			○	◎		
問題演習		問題演習		○	○			
冬 季	1	冬季休業日(12/21～1/6)					観 察 ・ 実 験 の 技 能  観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	
	問題演習	問題演習		○	○			
三 学 期	2				○	○	評 価 方 法  学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「観察・実験の技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。	
		学年末考査4・5年(2/22～2/28)			○	◎		
	3	問題演習	問題演習		○	○		
		備 考			○	○		

平成30年度  
シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	理科	科目	探究理科 I (地学分野)	学年	5 年	類型	スーパーグローバル文科系	単位数	2	単位
----	----	----	------------------	----	-----	----	--------------	-----	---	----

教科書名	探究	出版社名	愛媛県高等学校教育研究会理科部会
------	----	------	------------------

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等			
		単元	内容	関	思	技	知				
一学期	4	1 四国の自然	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四国の地質</li> <li>・火成岩の観察</li> <li>・堆積岩の観察</li> <li>・変成岩の観察</li> <li>・地層の形成</li> </ul>	○		◎		<p>授業の概要</p> <p>一学期は、四国の地質について学び、四国の成り立ちについて考察します。また四国で発生する地震のメカニズムと想定される災害について学び、今後の防災への備えについて考えます。</p> <p>二学期は、火山噴火の仕組みと災害、大気の運動の仕組みと気候との関係、四国の気象災害、愛媛に縁のある先人や産業について学びます。</p> <p>三学期は、今まで学んだことを生かし、問題演習を通して地学分野に関する理解を深めていきます。</p> <p>学習の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然の事物や現象に関心が持てるようになる。</li> <li>・四国の成り立ちと、現在も起こる地震とその災害について理解し、防災意識を高めることができる。</li> <li>・日本で起こる火山災害、気候の仕組みと四国で発生する気象災害について理解し、防災意識を高めることができる。</li> <li>・愛媛に縁のある先人や産業について理解できる。</li> <li>・人間の生活と自然環境との相互作用を理解し、持続可能な社会を構築するための行動目標を設定することができる。</li> </ul> <p>評価の観点</p> <p>関心・意欲・態度</p> <p>自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。</p> <p>観察・実験の技能</p> <p>観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。</p> <p>知識・理解</p> <p>自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。</p> <p>評価方法</p> <p>学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「観察・実験の技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。</p> <p>備考</p>			
				5	中間考査(5/15～5/18)		◎			○	
				6	2 地震と災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震発生のメカニズム</li> <li>・四国沖で発生する地震</li> <li>・四国の活断層と地形</li> <li>・地震による災害と防災</li> <li>・家庭での防災の取組</li> </ul>	○			◎	
							◎		○		
	夏季	7	3 火山と災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マグマの成分と火山噴火との関係</li> <li>・火山災害</li> </ul>			◎		○		
					◎	○					
		8	夏季休業日(7/21～8/26)								
		9	4 気象と災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の気候・世界の気候</li> <li>・大気の大循環</li> <li>・日本付近の気団</li> <li>・四国の気象災害</li> <li>・気候と海流</li> </ul>			◎		○		
	◎				○						
	二学期	10	中間考査5年(10/2～10/5)			◎	○				
			中間考査4・6年(10/9～10/12)			○			◎		
		11	5 愛媛の先達・産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大野作太郎と化石 別紙鉱山</li> <li>・ドロマイト鉱山</li> </ul>	○		○				
○						◎					
12		6 人間の生活と自然環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の活動と自然との相互作用</li> <li>・持続可能な社会</li> <li>・まとめ</li> </ul>	◎	○						
				◎	○						
三学期	1	問題演習	・問題演習			○	◎				
		◎	○								
	2	問題演習	・問題演習	○		◎					
		◎	○								
3	問題演習	・問題演習	○		◎						
	◎	○									

平成30年度  
シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	理科	科目	物理基礎 物理	学年	5 年	類型	スーパーグローバル理科系	単位数	2 2	単位
----	----	----	------------	----	-----	----	--------------	-----	--------	----

教科書名	改訂版 物理基礎	改訂版 物理	出版社名	数研出版
------	----------	--------	------	------

学期	月	指 導 計 画		評 価 の 観 点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単 元	内 容	関	思	技	知		
一 学 期	4	第1編 運動とエネルギー	1 速度 2 加速度		○	○		<p style="text-align: center;">授 業 の 概 要</p> 第1編は物理基礎、物理とも力学分野です。主に運動する物体について規則性やエネルギー、またそれらの法則を学びます。 第2編は熱・熱エネルギーに関する内容です。物理基礎で、熱に関する諸現象を学び、物理ではそのメカニズムを詳しく学習します。 第3編は波に関する内容です。波動現象の基本的な性質や特徴を学び、音や光の諸現象を学習します。 物理基礎の第4編は電気分野です。オームの法則や電気エネルギーについて学びます。 物理基礎の第5編は、身の回りで利用されているエネルギーや、社会で実用化されている技術に関して、物理的側面からその仕組みを学習します。 物理の第4章以降は、6年生で学習します。	
		第1章 運動の表し方	3 落体の運動		○	○	◎		
		第2章 運動の法則	1 力とそのはたらき 2 力のつりあい 3 運動の法則			○	◎		
		第3章 仕事と力学的エネルギー	4 摩擦を受ける運動 5 液体や気体から受ける力			○	◎		
	5	中間考査(5/15～5/18)	1 仕事 2 運動エネルギー			○	◎		
			3 位置エネルギー 4 力学的エネルギーの保存			○	◎		
	6	第2編 熱	1 熱と熱量 2 熱と物質の状態			○	○		
		第1章 熱とエネルギー	3 熱と仕事 4 不可逆変化と熱機関			○	○		
		第3編 波	1 波と媒質の運動		○		◎		
		第1章 波の性質	2 波の伝わり方			○	○		
	7	期末考査(6/27～7/3)				○	◎		<p style="text-align: center;">学 習 の 到 達 目 標</p> ・物理的な事物・現象についての観察、実験を行い、実験技能の向上を図るとともに自然に対する関心や探究心を高め、物理的に探究する能力と態度を身に付ける。 ・身の回りの事物・現象の背後に潜む、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成できる。 ・物理学の基本法則を学び、それらを用いて基本的な物理現象について解析することができる。
		第2章 音	1 音の性質				○		
		2 発音素の振動と共振・共鳴				○			
夏季休業日(7/21～8/26)									
二 学 期	8	第4編 電気	1 電気の性質 2 電流と電気抵抗 3 電気とエネルギー		○	◎	<p style="text-align: center;">評 価 の 観 点</p> 関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度 自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。		
		第1章 物質と電気抵抗	1 交流 2 電磁波		○	○			
		第2章 交流と電磁波			○	○			
		第5編 物理学と社会	1 エネルギーの移り変わり 2 エネルギー資源と発電		○	○			
	9	第1章 エネルギーとそれの利用	1 摩擦をコントロールする 2 エネルギーを有効利用する 3 見えないものを見る			○		◎	
		中間考査5年(10/2～10/5)				○		◎	
	10	中間考査4・6年(10/9～10/12)				○		◎	
		第1編 力と運動	1 平面運動の速度・加速度			○		◎	
		第1章 平面内の運動	2 落体の運動			○		◎	
		第2章 剛体	1 剛体にはたらく力のつりあい 2 剛体にはたらく力の合力と重心			○		◎	
	11	第3章 運動量の保存	1 運動量と力積 2 運動量保存則			○		◎	<p style="text-align: center;">思 考 ・ 判 断 ・ 表 現</p> 自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
			3 反発係数			○		◎	
12	期末考査(11/28～12/4)				○	◎	<p style="text-align: center;">観 察 ・ 実 験 の 技 能</p> 観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。		
	第4編 円運動と万有引力	1 等速円運動 2 慣性力			○	○			
		3 単振動 4 万有引力			○	◎			
	冬季休業日(12/21～1/6)								
三 学 期	1	第2編 熱と気体	1 気体の法則		○	○	<p style="text-align: center;">知 識 ・ 理 解</p> 自然の事物・事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。		
		第1章 気体のエネルギーと状態変化	2 気体分子の運動		○	◎			
			3 気体の状態変化			○		○	
	2	第3編 波	1 正弦波					○	<p style="text-align: center;">評 価 方 法</p> 学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「観察・実験の技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。
		第1章 波の伝わり方	2 波の伝わり方			○		○	
		第2章 音の伝わり方	1 音の伝わり方 2 音のドップラー効果			○		◎	
		学年末考査4・5年(2/22～2/28)				○		◎	
	3	第3章 光	1 光の性質			○		◎	<p style="text-align: center;">備 考</p> 進度はかなり速くなります。復習を心がけ、一日一問の問題演習を継続することが大切です。
			2 レンズ			○		◎	
			3 光の干渉と回折			○		◎	



平成30年度  
シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	理科	科目	生物基礎	学年	6 年	類型	スーパーグローバル文科系	単位数	2	単位
----	----	----	------	----	-----	----	--------------	-----	---	----

教科書名	改訂版 生物基礎	出版社名	数研出版
------	----------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単 元	内 容	関	思	技	知		
一 学 期	4	演習問題	問題演習	○			○	<p>授 業 の 概 要</p> <p>教科書内容の学習を一通り終えると、発展的な内容や探究活動に取り組み、生物や生物現象の特徴は、共通性が見られると同時に多様性があることを理解し、要因を個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的に捉える立場を養います。</p> <p>学 習 の 到 達 目 標</p> <p>・5年次に学習した内容を基に、自然界の事象を分析的、総合的に考察する能力と態度を育成するとともに、豊かな科学的素養を養い、入試レベルに対応できる力を身に付ける。</p> <p>評 価 の 観 点</p> <p>関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度</p> <p>自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。</p> <p>思 考 ・ 判 断 ・ 表 現</p> <p>自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。</p> <p>観 察 ・ 実 験 の 技 能</p> <p>観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。</p> <p>知 識 ・ 理 解</p> <p>自然の事物・事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。</p> <p>評 価 方 法</p> <p>学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「観察・実験の技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。</p> <p>備 考</p>	
		探究活動	観察・実験	○	○	○	○		
	5	中間考査(5/15~5/18)	問題演習		○	○	◎		
		探究活動	観察・実験	○	○	○	○		
	6				○		○		
					○		○		
	7	期末考査(6/27~7/3)				○	○		◎
		演習問題	問題演習	○			○		
	夏 季	8	夏季休業日(7/21~8/26)						
		9	演習問題	問題演習	○				○
		探究活動	観察・実験	○	○	○	○		
				○			○		
二 学 期	10	中間考査5年(10/2~10/5)			○	○	◎		
		中間考査4・6年(10/9~10/12)	問題演習	○			○		
		観察・実験	○	○	○	○			
	11				○		○		
					○		○		
	12	期末考査(11/28~12/4)				○	○	◎	
			問題演習	○			○		
	冬 季	1	冬季休業日(12/21~1/6)						
			演習問題	問題演習	○			○	
	三 学 期	2	家庭学習期間	家庭学習	○			○	
学年末考査4・5年(2/22~2/28)							○	◎	
3									

平成30年度  
シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	理科	科目	生物	学年	6 年	類型	スーパーグローバル理科系	単位数	4	単位
----	----	----	----	----	-----	----	--------------	-----	---	----

教科書名	生物	出版社名	数研出版
------	----	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	関	思	技	知	
一 学 期	4	第4編 生物の環境応答	1 刺激の受容から反応への情報の流れ	○	○	◎	<p><b>授業の概要</b></p> <p>前年度に引き続き、生物基礎の内容を基に生物の内容を学習します。</p> <p>第3編では生物の初期発生の過程と、ここで見られる細胞間の相互作用、その過程で発生する遺伝子とその発現を調節している物質について学習します。</p> <p>第4編では動物の神経系における情報伝達の仕組みや動物の行動、植物の環境に対する応答、植物の成長過程で働く物質について学びます。</p> <p>第5編では生態系の中で、多様な生物が共存している様子や仕組み、生物多様性について学びます。</p> <p>第6編では、生物の進化や多様な生物の分類のしかたについて学びます。</p> <p><b>学習の到達目標</b></p> <p>・日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を養う。</p> <p>・生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。</p> <p>・観察や実験、探究活動を行い、得られた結果について自分で考察することで分析する力や思考する力を養う。</p>	
		1章 動物の刺激の受容と反応	2 ニューロンの性質と興奮のしくみ	○	○	◎		
	5	中間考査(5/15～5/18)	3 刺激の受容のしくみ	○	○	◎		
		3章 植物の環境応答	4 中枢神経での情報処理	○	○	◎		
	6	5章 植物の環境応答	5 効果器としての骨格筋のはたらき	○	○	◎		
			1 環境に応じた植物の一生と植物ホルモン 2 環境要因による発芽の調節	○	○	◎		
	7	期末考査(6/27～7/3)	2 環境要因による発芽の調節 3 栄養成長の調節	○	○	◎		
4 気孔の開閉の調節 5 花芽形成の調節			○	○	◎			
二 学 期	8	第5編 生態系と環境	6 老化と落葉	○	○	◎	<p><b>評価の観点</b></p> <p>関心・意欲・態度</p> <p>自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。</p> <p><b>思考・判断・表現</b></p> <p>自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。</p> <p><b>観察・実験の技能</b></p> <p>観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。</p> <p><b>知識・理解</b></p> <p>自然の事物・事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。</p> <p><b>評価方法</b></p> <p>学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「観察・実験の技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。</p> <p><b>備考</b></p> <p>進度はかなり速くなります。復習を心がけ、一日一問の問題演習を継続することが大切です。</p>	
		1章 個体群と生物群集	7 ストレスに対する応答	○	○	◎		
	9	2章 生態系の物質生産とエネルギーの流れ	1 個体群と環境 2 個体群の構造と成長 3 個体群の相互作用	○	○	◎		
		3章 生態系と生物多様性	4 種間の相互作用 5 生物群集の成り立ちと多種の共存	○	○	◎		
	10	第6編 生物の進化と系統	1 食物網と物質生産	○	○	◎		
		1 生命の起源	2 生態系の構造とエネルギーの流れ	○	○	◎		
	11	中間考査5年(10/2～10/5)	1 生物多様性とその意味	○	○	◎		
中間考査4・6年(10/9～10/12)		2 生物多様性を減少させる要因	○	○	◎			
12	1章 生命の起源と生物の変遷	3 遺伝子頻度とその変化のしくみ 4 種分化 5 共進化	○	○	◎			
	2章 進化のしくみ	1 生物の系統	○	○	◎			
三 学 期	1	3章 生物の系統	2 生物の世界の3ドメイン	○	○	◎		
		3 生物の系統のまとめ	3 生物の系統のまとめ	○	○	◎		
	2	期末考査(11/28～12/4)	問題演習	○	○	◎		
3	冬季休業日(12/21～1/6)	問題演習	○	○	◎			
	1	問題演習	○	○	◎			
3	2	家庭学習	○	○	◎			
		学年末考査4・5年(2/22～2/28)	○	○	◎			
3	3	問題演習	○	○	◎			
		問題演習	○	○	◎			

平成30年度  
シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	理科	科目	物理	学年	6年	類型	スーパーグローバル理科系	単位数	4	単位
----	----	----	----	----	----	----	--------------	-----	---	----

教科書名	物理	出版社名	数研出版
------	----	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	関	思	技	知	
一 学 期	4	4編 電気と磁気	1 静電気力 2 電場		○	◎	授業の概要 第4編は電磁気分野です。オームの法則や電気エネルギー、磁気に関する内容を学び、電流と磁気の関連性について学習を深めていきます。 第5編は、原子に関する内容です。ミクロな世界における、物質の粒子性と波動性や、原子の構造、原子核の反応について学習します。	
		1章 電場	3 電位 4 物質と電場		○	○		
		2章 電流	5 コンデンサー		○	◎		
			1 オームの法則 2 直流回路		○	◎		
	5	中間考査(5/15~5/18)	3 半導体		○	○		
		3章 電流と磁場	1 磁場 2 電流の作る磁場		○	◎		
	6		3 電流が磁場から受ける力		○	◎		
			4 ローレンツ力		○	◎		
		4章 電磁誘導と電磁波	1 電磁誘導の法則		○	◎		
			2 交流の発生		○	◎		
	7	期末考査(6/27~7/3)	3 自己誘導と相互誘導		○	◎		
			4 交流回路 5電磁波		○	◎		
夏季休業日(7/21~8/26)								
8		5編 原子	1 電子		○	◎		
9	1章 電子と光	2 光の粒子性 3 X線		○	○			
	2章 原子と原子核	4 粒子の波動性		○	○			
		1 原子の構造とエネルギー準位		○	○			
		2 原子核 3 放射線とその性質		○	○			
二 学 期	中間考査5年(10/2~10/5)			○	○			
	中間考査4・6年(10/9~10/12)	4 核反応と核エネルギー		○	◎			
		5 素粒子		○	◎			
		問題演習		○	◎			
11				○	◎			
				○	◎			
				○	◎			
				○	◎			
12	期末考査(11/28~12/4)			○	◎			
				○	◎			
				○	◎			
				○	◎			
冬 季	冬季休業日(12/21~1/6)							
				○	◎			
				○	◎			
				○	◎			
三 学 期	1	家庭学習		○	◎			
				○	◎			
	2			○	◎			
		学年末考査4・5年(2/22~2/28)		○	◎			
3								

平成30年度  
シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	理科	科目	探究理科Ⅱ (化学分野)	学年	6年	類型	スーパーグローバル文科系	単位数	2	単位
----	----	----	-----------------	----	----	----	--------------	-----	---	----

教科書名	化学基礎・化学実験ノート	出版社名	愛媛県高等学校教育研究会理科部会化学部門
------	--------------	------	----------------------

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単元	内容	関	思	技	知		
一 学 期	4	物質の構成	1 物質の成分と構成元素		○		○	<p>授業の概要</p> <p>基本的には、センター試験に向けての問題演習を行います。また、4・5年次にできなかった実験もを行い、化学現象の理解を深めていきます。2学期の後半からは総合問題で、実力を養っていきます。</p> <p>学習の到達目標</p> <p>・ 自然における化学の基本的な概念や原理・法則を理解すると同時に、これらを活用して新しい事物や、複雑な事象の奥にある原理や法則を説明する能力を養う。 ・ 物質や物質の状態・変化について化学的に考察する態度と能力を養い、科学的に正しい物質観を育成できる。</p> <p>評価の観点</p> <p>関心・意欲・態度</p> <p>自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。</p> <p>観察・実験の技能</p> <p>観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。</p> <p>知識・理解</p> <p>自然の事物・事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。</p> <p>評価方法</p> <p>学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「観察・実験の技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。</p> <p>備考</p>	
			2 原子の構成と周期表		○		○		
			3 化学結合		○		◎		
			4 物質の利用		○		◎		
	5	中間考査(5/15~5/18)	物質の変化	1 物質量と濃度		○			◎
				2 状態変化		○			○
	6			3 化学反応と化学反応式		○			◎
						○			◎
						○			◎
						○			◎
	7	期末考査(6/27~7/3)	4 酸と塩基・水素イオン濃度		○		◎		
				5 中和と塩		○			◎
夏 季	8	夏季休業日(7/21~8/26)	6 酸化還元反応		○		◎		
					○		◎		
					○		◎		
					○		◎		
9			7 電池と電気分解		○		◎		
					○		◎		
					○		◎		
					○		◎		
二 学 期	10	中間考査5年(10/2~10/5)	8 物質の変化と熱		○		◎		
						○		◎	
						○		◎	
						○		◎	
11	中間考査4・6年(10/9~10/12)	総合問題演習		○		◎			
					○		◎		
					○		◎		
					○		◎		
12	期末考査(11/28~12/4)			○		◎			
					○		◎		
					○		◎		
					○		◎		
冬 季	1	冬季休業日(12/21~1/6)	家庭学習		○		◎		
						○		◎	
						○		◎	
						○		◎	
三 学 期	2	学年末考査4・5年(2/22~2/28)		○		◎			
					○		◎		
					○		◎		
3				○		◎			
					○		◎		



平成30年度  
シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	理科	科目	探究理科Ⅱ (地学分野)	学年	6年	類型	スーパーグローバル文科系	単位数	2	単位
----	----	----	-----------------	----	----	----	--------------	-----	---	----

教科書名	地学学習帳	出版社名	愛媛県高等学校教育研究会理科部会地学部門
------	-------	------	----------------------

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	関	思	技	知	
一学期	4	第2章 活動する地球	1 地球を測る	◎	○			<p>授業の概要</p> <p>一学期は、地球表層で起こる地震や火山などの現象について理解を深めます。 二学期は、地球の歴史、大気と海洋の相互作用、宇宙の成り立ちについて理解を深めます。また、問題演習によって基礎・基本事項の定着を図ります。 三学期は、問題演習を通して地学分野に関する理解を完成させていきます。</p> <p>学習の到達目標</p> <p>・自然の事物や現象に関心が持てるようになる。 ・地学分野の基礎・基本事項が身に付く。 ・地球や宇宙で起こる自然現象について、自分なりの表現で説明できるようになる。</p>
			2 地球内部の構造		◎	○		
			3 プレートテクトニクス		○		◎	
			4 火山の分布	○		◎		
			5 マグマの発生		○		◎	
	5	中間考査(5/15～5/18)			○		◎	
	6		6 火成岩の形成		○	◎		
			7 造岩鉱物		○	◎		
			8 地震が発生する仕組み		○		◎	
			9 日本周辺の地震の分布と種類	○	◎			
10 活断層を探る			○	◎				
7	期末考査(6/27～7/3)			○		◎		
夏季	8	第3章 移り変わる地球	・問題演習		○		◎	
			1 地表の変化と地層の形成		○	◎		
			2 堆積岩	◎	○			
			3 地殻変動と変成作用			◎	○	
			4 化石と地質時代	○		◎		
	9	夏季休業日(7/21～8/26)	1 大気の大循環		○		◎	
	2 地球の熱平衡			○		◎		
	3 大気と海洋の相互作用		○	◎				
	4 自然災害		○	◎				
	・問題演習			○		◎		
二学期	10	中間考査5年(10/2～10/5)	3 大気と海洋の相互作用		○	◎		
			4 自然災害	○	◎			
			・問題演習		○		◎	
			1 太陽系	○		◎		
			2 太陽の活動	○		◎		
	11	中間考査4・6年(10/9～10/12)	3 恒星の誕生と進化	○		◎		
	4 銀河と宇宙の広がり		○		◎			
	12		期末考査(11/28～12/4)		○		◎	
	問題演習			○		◎		
	・問題演習			○		◎		
冬季	1	第1章 宇宙の姿	1 太陽系	○		◎		
			2 太陽の活動	○		◎		
			3 恒星の誕生と進化	○		◎		
			4 銀河と宇宙の広がり	○		◎		
			12	問題演習		○		◎
	2	冬季休業日(12/21～1/6)	観察・実験の技能		○	◎		
			知識・理解		○		◎	
			自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。		○		◎	
			3	問題演習		○		◎
			・問題演習		○		◎	
三学期	3	学年末考査4・5年(2/22～2/28)	家庭学習		○		◎	
			評価方法		○		◎	
			備考		○		◎	